本文中の黒塗りの部分に該当するものです

2154 人、江南東路 1339 人と、この四路が多くの科挙合格者を輩出している(注 14)。この数字は、25 頁の表 2 「結婚年での嫁ぎ先の地理的分布」とまさしく一致する。

兩浙・福建・江西の 3 路が、墓誌銘における南宋の女性の嫁ぎ先と、南宋期の科挙合格者数の上位と同等であることは、嫁ぎ先・出身地・進士分布はほぼ同じ階層に属する人々の諸活動と考えられる。

科挙合格者が多い兩浙路のなかでも、温州と明州は多数の合格者を輩出している。温州は、柑橘・茶・蠲紙・漆器などの生産や造船業の発展にともなって、商品経済が発展した。この経済発展を背景にして、二程(程顥・程頤)の学問の伝統を受け継ぐかたちで、きわめて僅かであった科挙合格者が、徐々に増えて名族も形成された。

明州は、温州に次いで二番目に科挙合格者が多い州である。樓氏一族をはじめとする高官を代々輩出する名族がいくつか存在するなど、北宋末期以降、中央政権とのつながりが強い地域であった。名族は在地の官戸との婚姻関係を広く結び、さらに義荘の設置など、国家の保護を受けながら、族的財産の維持活動も盛んに行われた。

このように兩浙路は、南宋初期以来、政界とのつながりを保ち、中央官僚や学官とパイプを結んだことが、両浙路最多の科挙合格者を生むことにつながったのである。

上記のような科挙合格者を多く出した地域は、経済的には裕福であり、文化的にも豊かであった。科挙を受験することは、長期にわたって経済的に恵まれていなければならない。科挙受験者は、身近に書物がある、家庭教師について学ぶことができる、太学を経由して科挙を受験するなどのルートを用いることができ、受験に有利であったと考えられる。

別表「宋代女性墓誌銘」から結婚年での嫁ぎ先への移動を、縣内・州内・路内・隣接路間・路間と移動の範囲に分けて、人数を集計したのが下記の表 3 である。

表 3　結婚年での嫁ぎ先への移動人数と範囲

期別	縣内(%)	州内(%)	路内(%)	隣接路間(%)	路間(%)	計
北宋 1 期	54 (26.7)	20 (9.9)	25(12.4)	28 (13.9)	75 (37.1)	202
北宋 2 期	51 (26.7)	10 (5.2)	11 (5.8)	74 (38.7)	45 (23.6)	191
北宋 3 期	60 (47.2)	12 (9.4)	10 (7.9)	19 (15.0)	26 (20.5)	127
計	165(31.7)	42 (8.1)	46 (8.8)	121 (23.3)	146(28.1)	520
南宋 1 期	67 (52.8)	12 (9.4)	15 (11.8)	11 (8.7)	22 (17.3)	127
南宋 2 期	32 (55.2)	5 (8.6)	13 (22.4)	2 (3.5)	6 (10.3)	58
南宋 3 期	24 (64.9)	4(10.8)	5 (13.5)		4 (10.8)	37
計	123(55.4)	21 (9.5)	33 (14.9)	13 (5.9)	32 (14.4)	222

表 3 から以下のことが判明した。

北宋 1 期は、路を越えて嫁いでいる。

北宋 2 期は、路を越えてはいるが隣の路に嫁いでいる。

北宋 3 期は、縣内に嫁いでいる。

南宋は 1 期～3 期まで縣内に嫁いでいる。

滋賀秀三「寡婦の改嫁」(『中国家族法の原理』創文社　1967年) 422～25頁

(10)徐鉉撰『徐公文集』巻三十　汝南縣太君周氏夫人墓誌銘　開寶9年(976)卒48歳

楊億撰『武夷新集』巻八　劉氏太夫人天水縣太君趙氏墓碣銘　景德2年(1005)卒86歳

歐陽脩撰『歐陽文忠公集』巻六十二　漳南縣君張氏墓誌銘　景德3年(1006)卒37歳

曾鞏撰『元豐類藁』巻四十五　試秘書省校書郎李君妻太原王氏墓誌銘　大中祥符3年(1010)卒80歳

(11)蘇頌撰『蘇魏公文集』巻六十二　萬壽縣令張君夫人蘇氏墓誌銘

蘇氏予長妹也。我先人太尉公翰林府君晩得女。以其秀且慧故特撫愛之始稚。…及笄擇配且久乃以適亳州司法呂昌緒。昌緒故相許文穆公之孫也。甫三年而寡後、四年獲歸斯立。…又七年而後斯立卒且葬矣。…熙寧五年(1072)吾妹四十二卒。

(12)鄭獬撰『鄖溪集』巻二十二　崔夫人墓誌銘

夫人崔氏初帰大名孫君、孫君諱廣、樂安郡王漢韶之後也。…及孫君卒、夫人孤居益貧挈二稚児入京師依姨氏久之姨又卒。夫人撫二兒以泣曰、吾不忍兒之無以毓也。乃再帰於高密趙君二兒迺得成立。長曰勉遂中進士第、李曰過尤能苦學朋友推譽之。夫人帰趙氏二十六年至其亡如初帰也。趙君性高嚴、而夫人能以禮順之、諸子不一出、而夫人能以愛均之。

(13)秦觀撰『淮海集』巻三十六　蔡氏夫人行状

夫人姓蔡氏、楚州山陽人。故潭州寧鄉主簿徐君諱某之妻。而守秘書省校書郎致仕諱中正之娘也。幼聡敏、有才藝、父母獨奇愛之異於他女。年十四歳適同郡環生。生故疾病成禮十六日而卒。夫人雖幼居喪事舅孝謹如成人已而其舅又卒。…於是其母與諸昆弟率親族數十人即環館奪之曰、若十四而適人十六日、而夫死。爲夫之喪三年、舅之喪三年、若爲人婦亦至矣。…夫人悲哀迫不得已遂去環氏。一年而歸除君、徐君高郵人。…除君没二日而夫人亦卒矣。…除君前娶張氏妾生一女一男、夫人所出才一女而已既撫諸子猶已之子。

(14)鄒浩撰『道鄉集』巻三十七　夫人臧氏墓誌銘

夫人臧氏世爲越州山陰人、嘗嫁而孀居後乃歸今通仕郎新撫州金谿縣令姚君棐忱。金谿有男七人皆擧進士(4人)尚幼（三人)、女三人。…夫人各随其分極意調護如已出諸子安之悉如前母無恙。…大觀四年九月十五日感疾卒。享年三十九歳。(注14)

(注15)汪藻撰『浮溪集』巻二十八　令人施氏墓誌銘

令人毗陵施氏、朝奉郎知臨安軍諱辨之子、贈殿中丞諱洵之孫。歸同郡孫氏朝請郎致仕贈中奉大夫諱庭臣之継室。…令人在父母家即以孝友聡明聞。年十七歳適胡氏逾年而嫠。會中奉求繼室。…令人者乃彊奪其志歸之令人入孫氏。…中奉元配王氏有子數人、專其家政六十八年、養生送死冠婚賓祭野用、尊卑長幼之序皆有成規非其一毫不私也。…令人少喜讀書老而不衰、六経孔孟之書略通其大旨。…司馬温公家範乃并以授其子孫或不如訓者引家範。春秋九十四而終。

(16)鄭剛中『北山集』巻十五　外姑墓誌銘

浦江進士杜言堅妻謝氏、生女晬而言堅死後四年。謝攜其女、再適故贈朝請郎何至。至育之十年、擇同邑士者石子文帰之。今孤子石知彰之母夫人是也。…夫人荘靚寡言動有儀則凡婦道治内之美無一不備蓋、以女子而知儒學之貴其資性可知也。…紹興戊午三月來訪

別表 1　期別

年代	死亡年		結婚年		位階 正五品以上		位階 従五品以下		父官品 正五品以上		父官品 従五品以下		夫官品 正五品以上		夫官品 従五品以下		子官品 従五品以上		子官品 従五品以下	
-959		0.0%	4	0.4%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
960-969		0.0%	1	0.1%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
970-979	1	0.1%	6	0.5%	1	0.3%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1	0.2%		0.0%		0.0%
980-989	1	0.1%	11	1.1%		0.0%		0.0%		0.0%	1	0.2%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
990-999	1	0.1%	14	1.4%		0.0%		0.0%	1	0.8%		0.0%		0.0%	1	0.2%		0.0%		0.0%
1000-1009	3	0.3%	39	3.9%	3	0.9%		0.0%		0.0%	1	0.2%	1	0.6%	1	0.2%	1	1.5%	1	0.3%
1010-1019	6	0.6%	41	4.1%	2	0.6%		0.0%	2	1.6%	1	0.2%	0	0.0%	3	0.7%	1	1.5%		0.0%
1020-1029	5	0.5%	48	4.8%	4	1.2%		0.0%	2	1.6%	3	0.7%	1	0.6%	2	0.5%		0.0%	1	0.3%
1030-1039	19	1.8%	69	6.9%	10	3.0%		0.0%	4	3.1%	10	2.3%	10	5.8%	4	1.0%	4	6.0%	6	1.7%
1040-1049	36	3.3%	63	6.3%	16	4.8%		0.0%	10	7.8%	15	3.4%	7	4.1%	14	3.5%	4	6.0%	12	3.3%
1050-1059	57	5.3%	67	6.7%	32	9.5%		0.0%	4	3.1%	33	7.5%	17	9.9%	24	5.9%	7	10.4%	19	5.3%
1060-1069	88	8.2%	49	4.9%	57	17.0%		0.0%	18	14.0%	42	9.6%	29	16.9%	37	9.2%	6	9.0%	36	10.0%
1070-1079	46	4.3%	58	5.8%	20	6.0%		0.0%	2	1.6%	20	4.6%	5	2.9%	12	3.0%	5	7.5%	12	3.3%
1080-1089	124	11.5%	67	6.7%	49	14.6%		0.0%	18	14.0%	65	14.8%	7	4.1%	45	11.1%	7	10.4%	45	12.5%
1090-1099	106	9.9%	61	6.1%	46	13.7%	1	0.5%	24	18.6%	56	12.8%	31	18.0%	47	11.6%	9	13.4%	31	8.6%
1100-1109	51	4.7%	46	4.6%	17	5.1%	2	1.0%	3	2.3%	27	6.2%	8	4.7%	24	5.9%	4	6.0%	17	4.7%
1110-1119	42	3.9%	38	3.8%	11	3.3%	6	3.1%	4	3.1%	15	3.4%	5	2.9%	17	4.2%	2	3.0%	13	3.6%
1120-1129	24	2.2%	34	3.4%	7	2.1%	7	3.6%	2	1.6%	11	2.5%	4	2.3%	11	2.7%	1	1.5%	10	2.8%
北宋計	610	56.7%	716	72.0%	275	81.8%	16	8.2%	94	72.9%	300	68.3%	125	72.7%	243	60.1%	51	76.1%	203	56.5%
1130-1139	21	2.0%	42	4.2%	5	1.5%	6	3.1%	6	4.7%	16	3.6%	2	1.2%	10	2.5%	2	3.0%	7	1.9%
1140-1149	27	2.5%	32	3.2%	5	1.5%	11	5.6%	5	3.9%	8	1.8%	2	1.2%	13	3.2%	1	1.5%	15	4.2%
1150-1159	38	3.5%	48	4.8%	8	2.4%	12	6.2%	3	2.3%	13	3.0%	5	2.9%	12	3.0%	1	1.5%	12	3.3%
1160-1169	34	3.2%	31	3.1%	6	1.8%	10	5.1%	2	1.6%	7	1.6%	4	2.3%	11	2.7%	2	3.0%	10	2.8%
1170-1179	47	4.4%	35	3.5%	3	0.9%	12	6.2%	4	3.1%	11	2.5%	5	2.9%	19	4.7%	1	1.5%	17	4.7%
1180-1189	44	4.1%	23	2.3%	3	0.9%	15	7.7%	1	0.8%	14	3.2%	2	1.2%	12	3.0%	1	1.5%	11	3.1%
1190-1199	51	4.7%	15	1.5%	7	2.1%	21	10.8%	2	1.6%	12	2.7%	7	4.1%	19	4.7%	2	3.0%	21	5.8%
1200-1209	40	3.7%	19	1.9%	3	0.9%	13	6.7%	4	3.1%	9	2.1%	3	1.7%	13	3.2%	0	0.0%	11	3.1%
1210-1219	33	3.1%	18	1.8%	6	1.8%	12	6.2%	3	2.3%	11	2.5%	3	1.7%	9	2.2%	4	6.0%	7	1.9%
1220-1229	41	3.8%	8	0.8%	4	1.2%	18	9.2%	2	1.6%	16	3.6%	5	2.9%	12	3.0%	0	0.0%	20	5.6%
1230-1239	31	2.9%	7	0.7%	4	1.2%	19	9.7%	1	0.8%	10	2.3%	3	1.7%	14	3.5%	0	0.0%	8	2.2%
1240-1249	19	1.8%		0.0%	2	0.6%	13	6.7%	1	0.8%	6	1.4%	1	0.6%	11	2.7%	0	0.0%	7	1.9%
1250-1259	16	1.5%		0.0%	1	0.3%	8	4.1%	0	0.0%	4	0.9%	3	1.7%	2	0.5%	0	0.0%	5	1.4%
1260-1269	16	1.5%		0.0%	2	0.6%	6	3.1%	1	0.8%	2	0.5%	1	0.6%	3	0.7%	1	1.5%	4	1.1%
1270-1279	7	0.7%		0.0%	2	0.6%	3	1.5%		0.0%		0.0%	1	0.6%	1	0.2%	1	1.5%	1	0.3%
南宋計	465	43.3%	278	28.0%	61	18.2%	179	91.8%	35	27.1%	139	31.7%	47	27.3%	161	39.9%	16	23.9%	156	43.5%
計	1075	100.0%	994	100.0%	336	100.0%	195	100.0%	129	100.0%	439	100.0%	172	100.0%	404	100.0%	67	100.0%	359	100.0%

別表2　結婚年での出身地の地理的分布（期別）

期別	01 京畿路	02 京東東路	03 京東西路	04 京西南路	05 京西北路	06 河北東路	07 河北西路	08 河東路	09 永興軍路	10 秦鳳路	11 兩浙路	12 淮南東路	13 淮南西路	14 江南東路	15 江南西路	16 荊湖北路	17 荊湖南路	18 福建路	19 成都府路	20 潼川府路	21 利州路	22 夔州路	23 廣南東路	24 廣南西路	出身地不明	合計
北宋１期 960～1044	19	6	14	2	24	7	7	7	4	4	42	11	5	5	20	5	5	15	12	1	2				40	257
北宋２期 1045～1085	63	2	8	2	20	1	5	11	5	1	34	7	1	3	19	6	1	11	3	2	2	1			46	254
北宋３期 1086～1126	21	1	2	1	4	2	4	1	1	1	42	3	3	8	21	1	3	11	7	2	1				52	192
北宋計	103	9	24	5	48	10	16	19	10	6	118	21	9	16	60	12	9	37	22	5	5	1	0	0	138	703
南宋１期 1127～1162	3	1	3		1	2	4				72	3	4	4	22	2	1	14	2	1					12	151
南宋２期 1163～1194		1			1			1			32	1		5	5			13		1				1	20	81
南宋３期 1195～1279					1		1				14	2		5	8			12							19	62
南宋計	3	2	3	0	3	2	5	1	0	0	118	6	4	14	35	2	1	39	2	2	0	0	0	1	51	294
合計	106	11	27	5	51	12	21	20	10	6	236	27	13	30	95	14	10	76	24	7	5	1	0	1	189	997

別表3　結婚年での嫁ぎ先の地理的分布（期別）

期別	年代別事例数	01 京畿路	02 京東東路	03 京東西路	04 京西南路	05 京西北路	06 河北東路	07 河北西路	08 河東路	09 永興軍路	10 秦鳳路	11 兩浙路	12 淮南東路	13 淮南西路	14 江南東路	15 江南西路	16 荊湖北路	17 荊湖南路	18 福建路	19 成都府路	20 潼川府路	21 利州路	22 夔州路	23 廣南東路	24 廣南西路	嫁ぎ先不明	未婚
北宋１期 960～1044	257	22	2	12	1	31	6	12	4		2	45	12	4	6	22	7	5	16	9	1					38	
北宋２期 1045～1085	254	12	1	9	2	84	3	5	1	3		29	7	1	7	21	4	2	11	4		1	1	1			15
北宋３期 1086～1126	192	5		1		28	2			1		37	1	2	8	26	1	3	13	4	2			1		22	35
北宋計	703	39	3	22	3	143	11	17	5	4	2	111	20	7	21	69	12	10	40	17	3	1	1	2	0	60	50
南宋１期 1127～1162	152	2		3		3		2				67	6	1	3	25	2	2	15	3						17	1
南宋２期 1163～1194	81		1						1			37			3	6			14	1						18	
南宋３期 1195～1279	62							1				13			4	7			17							17	3
南宋計	295	2	1	3	0	3	0	3	1	0	0	117	6	1	10	38	2	2	46	4	0	0	0	0	0	52	4
合計	998	41	4	25	3	146	11	20	6	4	2	228	26	8	31	107	14	12	86	21	3	1	1	2	0	112	54

別表６　撰者の官職と品階

北宋　墓誌銘 546 人　撰者 102 人

文集	撰者（生卒年）	官職	品階
	劉渙(1000～1080)	文林郎	従八
三劉集(1)	劉恕(1032～1078)	秘書丞	従七
	劉義仲(不明)	宣教郎	従八
丹陽集 3	葛勝仲(1072～1144)	國子祭酒	従四
丹淵集 8	文同(1018～1079)	太常博士	正八
元豐類藁 24	曾鞏(1019～1083)	中書舎人	正四
文恭集 2	胡宿(996～1067)	吏部侍郎	従三
文莊集 2	夏竦(985～1051)	宰相	正一
華陽集 12	王珪(1019～1085)	門下侍郎	従三
王魏公 5	王安禮(1035～1095)	翰林学士	正三
北山小集 5	程俱(1078～1144)	中書舎人	正四
古靈集 3	陳襄(1017～1080)	給事中	正四
傳家集 5	司馬光(1019～1086)	宰相	正一
伊川集(1)	程頤(1033～1085)	儒学者	
安陽集 7	韓琦(1008～1075)	宰相	正一
竹隱集 5	趙鼎臣		
西塘集 2	鄭俠(1014～1119)	朝奉郎	正七
西臺集 5	畢仲游(1047～1121)	吏部郎中	正六
宋文鑑(3)	呂祖謙(1137～1181)	秘書閣著作郎	止八
西溪集 2	沈遘（不明）	龍圖閣学士	正三
長興集 13	沈括(1029～1093)	翰林学士	正三
雲巣編 2	沈遼(1032～1085)	将作監主簿	従八
姑溪集 2	李之儀(不明)	太学博士	従八
宗伯集 2	孔武仲(不明)	禮部侍郎	従三
忠肅集 5	劉摯(1030～1097)	尚書右僕射	従一
東坡集 5	蘇軾(1036～1101)	翰林学士	正三
東堂集 3	毛滂(不明)	知秀州	
武夷集 1	楊億(974～1020)	翰林学士	正三
武溪集 1	余靖(1000～1064)	工部尚書	従二
河東集 1	柳開（ 947～1000)	賛善大夫	正八
河南集 3	尹洙（1001＝1047)	起居舎人	従六
直講集 9	李覯(1009～1059)	太学助教	従九
南陽集 1	韓維(1017～1098)	翰林学士	正三
後山集 4	陳師道(1053～1101)	太学博士	従六
柯山集 4	張耒(1054～1114)	起居舎人	従六
昆陵集 1	張守(1084～1145)	資政殿学士	正三
眉山集 3	唐庚(1070～1120)	承議郎	従七
苕溪集 1	劉一止(1078～1160)	敷文閣直学士	従三
范太史 90	范祖禹(1041～1098)	給事中	正四
范文正 2	范仲淹(989～1052)	参知政事	正二
范忠宣 1	范純仁(1027～1101)	観文殿大学士	従二

南宋　墓誌銘 482　撰者 104 人

文集	撰者（生卒年）	選者官職	品階
九華集 1	員興宗(不明)	著作郎	従七
山房集 1	周南(1159～1213)	池州教授	
丹陽集 1	葛勝仲(1072～1144)	國子祭酒	従四
文山集 2	文天祥(1236～1286)	宰相	正一
文定集 2	汪慶辰(1119～1176)	端明殿学士	正三
方舟集 11	李石(1108～？)	太学博士	従八
方壺集(2)	汗莘(1155～1227)	朱熹門人	
止斎集 4	陳傅良(1137～1203)	寶謨閣待制	従四
水心集 24	葉適(1150～1223)	寶文閣待制	従四
北山集 3	鄭剛中(1088～1154)	資政殿学士	正三
平斎集 5	洪咨夔(1176～1236)	翰林学士	正三
本堂集 2	陳著(1214～1297)	秘書監	正四
先天集 2	許月卿(1216～1285)	提挙常平事	
朱文公 16	朱熹(1130～1200)	寶文閣待制	従四
江湖集 6	陳造(1133～1203)	淮南安撫使	
艮斎集 1	薛李宣(1134～1173)	大理寺主簿	従八
西山集 2	眞徳秀(1178～1235)	参知政事	正二
克齋集 2	陳文蔚(1154～1239)	迪功郎	従九
攻媿集 10	樓鑰(1137～1213)	中書舎人	正四
周益國 13	周必大(1126～1204)	太子少傅	正一
性善堂 3	度正(不明)	禮部侍郎	従三
拙軒集 1	金・王寂(不明)	不明	
拙斎集 2	林之奇(1112～1176)	校書郎	従八
昌谷集 8	曹彦約(1157～1228)	兵部尚書	従二
東牟集 1	王洋(1087～1154)	徽猷閣直学士	従三
東塘集 3	袁説友(1140～1204)	参知政事	正二
東莱集 11	呂祖謙(1137～1181)	秘書閣著作郎	従七
松隱集 1	曹勛(1098～1174)	節度使	従二
南軒集 2	張栻(1133～1180)	吏部侍郎	従三
南澗稿 6	韓元吉(1118～1181)	龍圖閣学士	正三
屏山集 2	劉子翬(1101～1147)	朱熹門人	
建康集 1	葉夢得(1077～1148)	秘書丞	従七
後村集 34	劉克荘(1187～1269)	中書舎人	正四
後楽集 2	衞涇(不明)	参知政事	正二
毘陵集 1	張守(1084～1145)	資政殿学士	正三
洺水集 2	程珌(1164～1242)	端明殿学士	正三
相山集 1	王之道(1093～1169)	朝奉大夫	従六
秋崖稿 2	方岳(1199～1262)	不仕	
胡澹庵 2	胡銓(1102～1180)	工部侍郎	従三
苕溪集 7	劉一止(1078～1160)	敷文閣直学士	従三
香溪集 2	范浚(1102～1151)	学者	

騎省集 1	徐鉉(917～992)	吏部尚書	正二
晁雞肋 15	晁補之(1053～1110)	禮部郎中	從五
浮沚集 3	周行己(不明)	本州教授	
浮溪集 5	汪藻(1079～1154)	顕謨閣学士	正三
祠部集 5	強至(1022～1076)	尚書祠部郎中	從六
高峯集 2	廖剛(1071～1143)	工部尚書	從二
張右史(4)	張耒(1054～1114)	太常少卿	從五
梁谿集 2	李綱(1083～1140)	兵部侍郎	從三
淨德集 6	呂陶(不明)	集賢院学士	從三
淮海集 4	秦觀(1049～1100)	太学博士	從八
陶山集 20	陸佃(不明)	尚書右丞	正一
彭城集 9	劉攽(1023～1089)	中書舍人	正四
景文集 4	宋祁(991～1061)	翰林学士	正三
無爲集 5	楊傑(不明)	禮部員外郎	從六
山谷外集 18	黄庭堅(1045～1105)	起居舍人	從六
嵩山集 6	晁説之(1059～1129)	徽猷閣待制	從四
摛文堂 13	慕容彦逢(1067～1117)	刑部尚書	從二
溪堂集 8	謝逸(不明)	文学者(詩作	
跨鼇集 3	李新(不明)	承議郎	從七
道卿集 11	鄒浩(1060～1111)	龍圖閣直学士	從三
鄖溪集 9	鄭獬(1022～1072)	翰林学士	正三
嘉祐集 1	蘇洵(1009～1066)	校書郎	從八
演山集 5	黄裳(1146～1194)	禮部尚書	從二
清獻集 1	趙抃(1008～1084)	参知政事	正二
廣陵集 3	王令(1032～1059)	学者	
樂全集 9	張方平(1007～1091)	参知政事	正二
樂圃餘藁 1	朱長文(1039～1098)	秘書省正字	
樂靜集 3	李昭玘(不明)	起居舍人	從六
横塘集 2	許景衡(1072～1128)	尚書右丞	正一
文忠集 21	歐陽脩(1007～1072)	参知政事	正二
滹水集 2	李復(不明)	中大夫	正五
端明集 4	蔡襄(1012～1067)	端明殿学士	正三
學易集 5	劉跂(不明)	朝奉郎	正七
龍雲集 3	劉弇(1048～1102)	著作佐郎	正八
龍學文集 1	祖無擇(1006～1085)	龍圖閣直学士	從三
龜山集 5	楊時(1053～1135)	龍圖閣直学士	從三
濟南集 1	李廌(1059～1109)	蘇軾門人	
臨川文集 28	王安石(1021～1086)	宰相	正一
襄陵文集 2	許翰(？～1133)	資政殿大学士	從二
竹友集 2	謝冂(不明)	文学者	
鴻慶集 1	孫覿 (1081～1169)	翰林学士	正三
蘇學士集 3	蘇舜欽(1008～1048)	集賢校理	
蘇魏公集 7	蘇頌(1020～1101)	太子少師	正一
灌園集 4	呂南公(1047～1086)	薦士	

勉斎集 6	黄榦(1152～1221)	朱熹門人	
浣川集 1	戴栩(不明)	太常博士	正八
浮山集 1	仲并(不明)	光禄丞	正八
浮溪集 4	汪藻(1079～1154)	顕謨閣学士	正三
庸斎集 2	趙汝騰(？～1261)	翰林学士	正三
梅溪集 1	王十朋(1112～1171)	龍圖閣学士	正三
雪坡集 3	姚勉(1216～1262)	校書郎	從八
敝帚稿 1	包恢(1182～1268)	資政殿学士	正三
斐然集 6	胡寅(1098～1156)	徽猷閣直学士	從三
渭南集 12	陸游(1125～1209)	寶章閣待制	從四
絜齋集 8	袁燮(1144～1224)	國子祭酒	從四
舒文靖 2	舒璘(1136～1199)	徽州教授	
蛟峯集 2	方逢辰(1221～1291)	吏禮二部尚書	正二
象山集 2	陸九淵(1139～1192)	台州崇道観	
黄四如 1	黄仲元(1231～1312)	國子監簿	正八
鄂州集 1	羅願(1136～1184)	知鄂州 朱熹門人	
慈湖書 5	楊簡(1141～1226)	寶謨閣学士	正三
筠谿集 1	李彌遜(1089～1153)	起居郎	從六
鉛刀編 2	周孚(1135～1177)	眞州教授	
漁墅稿 1	陳元晉(不明)	安撫使	
漢濱集 1	王之望(1103～1170)	参知政事	正二
漫塘集 23	劉宰(1166～1239)	太常丞	從八
碧悟集 4	馬廷鸞(1222～1289)	右丞相	正一
網山集 3	林亦之(不明)	学者	
蒙川稾 2	劉黻(不明)	吏部尚書	正二
蒙齋集 7	袁甫(不明) 袁燮.子	國子祭酒	從四
誠齋集 22	楊萬里(1127～1206)	寶謨閣学士	正三
横浦集 2	張九成(1092～1159)	禮部侍郎	從三
潛齋集 1	何夢桂(不明)	太常博士	正八
盤洲集 2	洪适(1117～1184)	観文殿大学士	從二
緣督集 3	曾手(1142～？)	朝散大夫	從六
蓮峯集 1	史堯弼(不明)	文学者	
閬風集 1	舒嶽祥(1236～？)	承直郎	從八
廬溪集 10	王庭珪(1080～1172)	敷文閣学士	正三
篔窗集 2	陳耆卿(1180～1236)	國子監司業	正六
遺山集 3	金・元好問(不明)	尚書員外郎	從六
麟齋集 4	林希逸(不明)	中書舍人	正四
龍川集 18	陳亮(1143～1194)	健康府判官	正八
龜谿集 1	沈與求(1086～1137)	翰林学士	正三
樵溪集 4	劉才邵(1086～1158)	吏部尚書	正二
燭湖集 6	孫應時(1154～1206)	黄巖尉	
鴻慶集 8	孫覿(1081～1169)	翰林学士	正三
蘆川集 1	張元幹(1091～？)	将作少監	從六
追加 40 人			

追加 20 人			
公是集 7	劉敞(1019～1068)	集賢院学士	従三
騎省集 5	徐鉉(917～992)	尚書右僕射	従一
伐檀集 1	黄庶(不明)	知康州	
欒城集 2	蘇轍(1039～1112)	文学者	
石門文字禅 1	釋恵洪(1071～1128)	圓明禅師	
銭塘集 3	韋驤(1033～1105)	朝議大夫	正六
伊川集 1	程頤(1033～1085)	儒学者	
金石文	20 人		
古誌石華 4	清・黄木驥	教諭	
八瓊金 2	清・陸増祥	翰林院修撰	
金石苑 1	清・劉善海		
藝文志 1	蕭稷		
金石攷 1	鍾離景伯	知壽州制	
鞏縣志 1	舒雅		
芒洛冢墓遺文 3			
江蘇金石志 1	清・羅振玉		
湖北金石志 1	闕名		
光緒慈谿縣志 1	清・張仲炘		
東都冢墓遺文卜虞 1	清・羅振玉		
東都冢墓遺文 1	章惇		
民国鞏縣志 2	鄭居中		

南宋 文集追加	32 人		
文天祥『文山集』	1	胡銓『胡澹庵』	12
鄭剛中『北山集』	4	楊簡『慈湖書續』	1
周必大『周益國』	1	洪适『盤州集』	5
呂祖謙『東萊集』	2	曾手『緣督集』	2
韓元吉『南澗甲乙稿』	1	孫應時『燭湖集』	1
劉克荘『後村集』	1	孫覿『鴻慶集』	1

紫微集 1	張山臬(1096～1148)	敷文閣待制	従四
艾軒集 1	林光朝(1114～1178)	中書舎人	正四
于湖集 1	張孝祥(1132～1170)	学者	
柳塘外 1	釋道璨(不明)	寺僧	
楳埜集 1	徐元杰(1194~1245)	将作監	従四
北海集 1	綦崇禮(1083～1142)	翰林学士	正三
應齋雑 1	趙善括(不明)	学者	
雲莊集 1	曾協		
疊嚴集 1	唐士恥		
舒文靖 2	舒璘		
矩山存 2	除經孫		
鶴林集 2	呉泳		
蒙川遺稿 2	劉黻(不明)	吏部尚書	正二
鐵菴集 5	方大琮(1118～1247)	直学士	従三
鶴山集 11	魏了翁		
浪語集 1	薛季宣(1134~1173)	大理寺主簿	従八
知稼翁 1	黄公度(1109～1156)	秘書正字	
龍圖集 5	陳宓		
金石文	17 人		
古誌石華 3			
金石苑 1			
八瓊金 2	清・陸増祥	翰林院修撰	
台州金石録 2	黄端		
栝蒼金石志 2	清・李遇孫		
永嘉縣志 1			
東甌金石志 1			
民国福建金石志 2			
閩中金石略 1			
光緒諸暨縣志 1			
越中金石記 1			

注：選者の生卒年と官職は、『宋人伝記資料索引』を参照。皇族墓誌銘の撰者 16 人

参考文献

那珂通世「宋百官品秩表」『支那通史』岩波文庫
『中国歴代官制大辞典』『中国官制大辞典』『宋代官制辞典』

撰者の品階と人数

品階	正一品	従一品	正二品	従二品	正三品	従三品	正四品	従四品	正五品	小計	従五品	正六品	従六品	正七品	従七品	正八品	従八品	正九品	従九品	小計	無階	合計
北宋	7	2	5	6	12	10	5	2	1	50	2	2	7	2	3	4	6	0	1	27	25	102
南宋	3	0	8	3	16	8	5	9	0	52	0	1	5	0	3	5	7	0	1	22	30	104

別表７　再婚した女性

	撰者(生卒年)　文集　墓主(卒年)	墓誌銘
北宋 1	蘇頌(1020～1101)撰 『蘇魏公集』巻六十二 萬壽縣令張君夫人蘇氏(1072)	撰者の妹である蘇氏は、故相許文穆公の孫である呂昌緒に嫁したが、三年後に呂昌緒が亡くなったので、四年後に萬壽縣令である張挺卿に再嫁した。
2	鄭獬(1022～1072)撰 『鄖溪集』巻二十二 崔夫人(不明)	崔氏は夫・孫廣が亡くなった後、都に住む姨のところに身を寄せたが姨も亡くなった。夫人は二兒に言うには「私は貧しくて兒を養うことができない。二兒を連れて高蜜の趙君に再嫁する」と。崔氏は貧しさ故に趙抉に再嫁。
3	秦觀(1049～1100)撰 『淮海集』巻三十六 蔡氏夫人(1075)	蔡氏は年十四で同郡の環生に嫁した。結婚後わずか十六日で寡婦となり、婚家を去って一年後に徐某に再嫁した。それから十八年後に徐某が没した。蔡氏は二日後に自殺。
4	鄒浩(1060～1111)撰 『道鄉集』巻三十七 夫人臧氏(1110)	臧氏は寡婦になって後、通仕郎新撫州金谿縣令・姚棐忱に再嫁した。姚棐忱には七男三女がいた。
南宋 5	汪藻(1079～1154)撰 『浮溪集』二十八 令人施氏(1148)	施氏は十七歳で胡氏に嫁したが、胡氏が翌年亡くなった。孫庭臣から縁談があり、父により「奪志」され再嫁した。
6	鄭剛中(1088～1154)撰 『北山集』巻十五 外姑墓誌銘(謝氏)	謝氏が一女を生んだ後、夫がなくなった。四年後、謝氏は一女を携えて朝請郎・何至に嫁いだが、何至も亡くなり十年後、同邑の士人・石子文に嫁ぎ、三男三女を生んだ。(撰者は長女の婿)
7	韓元吉(1118～1181)撰 『南潤稿』巻二十二 太恭人李氏(1193)	李氏は初め符寶郎・銭端義に嫁し女兒が生まれた。寡婦となり朝請大夫秘閣修撰・韓球に再嫁し継室となり二子の継母となった。(韓球も最初の妻・陳氏を亡くした。)

1～7　女性墓誌銘に載る被葬者の母の再婚

参考 1	強至(1022～1076)撰　『祠部集』 巻三十五　安府君妻趙氏	幼くして父を亡くし、母が張氏に嫁するに髄った。
参考 2	范祖禹(1041～1098)撰 『范太史集』巻四十五 右監門衛大将軍妻長安縣君蔚氏	蔚氏は幼くして父を亡くした。母の萬年君李氏は蔚氏を連れて宋氏に改嫁した。
参考 3	唐庚(1070)～1120)撰 『眉山文集』巻五　徐夫人	十二歳で母を亡くし、迎えた継室の母によく順応した。
参考 4	闕名撰『江蘇金石志』金石十 朱君夫人范氏	幼くして母を失ったが、継母にしたがった。
参考 5	清張仲炘撰『湖北金石志』 金石九　鄭公夫人李氏	幼くして母を失ったが、継母にしたがった。
参考 6	沈括 (1029～1093)撰 『長興集』巻十七 玉山縣縣君施氏(1076)	縣君施氏は繼母に事えた。繼母も施氏を我が子の如く慈しんだ。
参考 7	李昭玘(不明)撰 『樂靜集』巻二十八 蓬莱縣君趙氏墓誌銘	母の崇徳縣太君孫氏は早卒した。繼母は榮徳縣太君門氏である。

8～11　娘の再婚

参考 8	林之奇(1112～1176)撰 『拙斎集』巻十七　榮國太夫人王氏	太夫人には男六人、女三人の子がいた。長女と次女は早世。三女は周瑑に嫁いだが亡くなったので、呂大琮に再嫁した。
参考 9	洪适(1117～1184)撰 『盤州集』巻七十七 慈塋石表(陳氏)	太夫人陳氏には八男七女がいた。三女は早世、四人のうち一人は、従事郎に嫁いだが亡くなり、朝奉郎に再嫁した。
参考 10	朱熹(1130～1200)撰 『晦庵集』巻九十二 榮國夫人管氏	夫人には女が四人いた。三女は承直郎に嫁いだ後、奉議郎に再嫁した。(再嫁の理由は不明)
参考 11	黄裳(1146～1194)撰 『演山集』巻三十四　夫人林氏	黄氏には女が四人いた。四女は郷貢進士李耕に嫁いだが夫が亡くなり、再び鄭氏に嫁した。

12～15　男性墓誌銘に載る被葬者の母の再婚。

参考 12	范純仁(1027～1101)撰 『范忠宣集』巻十五 内殿承制閤門祗候衛君	衛君が幼少のとき、父の密が亡くなった。母は衛君を連れて吳氏に嫁した。
参考 13	楊時(1053～1135)撰 『龜山集』巻三十四　孫龍圖(諤)	孫諤の父・迪が亡くなった。母の黄氏は游氏に再嫁した。
参考 14	孫覿(1081～1169) 撰 『鴻慶居士集』巻三十二　王龜年	王龜年が幼い時、父が亡くなった。母は龜年を連れて高氏に再嫁した。
参考 15	周必大(1126～1204)撰 『文忠集』巻二十 資政殿學士戸部侍郎文正公	范仲淹が二歳の時、父が亡くなった。母は貧しいうえに頼るところもなく、長山の朱氏に再嫁した。

16～36　男性の墓誌銘に載る娘の再婚。(注 24、25 は娘二人が再嫁)

参考 16	范祖禹(1041~1093)撰 『范太史集』巻三十九 朝請郎致仕張公	張公には女が六人いた。次女は初め将作監主簿・皇甫僖に嫁した。再び衛尉寺丞・馬鼎に嫁した。
参考 17	孫覿(1081～1169)撰 『鴻慶居士集』巻三十四 右中奉大夫直秘閣致仕朱公	朱彦美には女が四人いた。次女は右従事郎・莫侶に嫁いだ。莫侶が亡くなり、右修職郎・洪時に再嫁した。
参考 18	陸游(1125～1209) 撰 『渭南集』巻三十四 尚書王公(佐)	王佐には女が四人いた。長女は温州平陽縣主簿・梁叔括に嫁した。叔括が亡くなった。長女は提擧湖北路常平茶鹽・張孝曾に再嫁した。
参考 19	周必大(1126～1204)撰 『文忠集』巻三十三 靖州太守李君發	李發には女が一人いた。右朝奉郎知邕州・葛永慶に嫁した。再び奉議郎前知南安軍南康縣・彭邦光に嫁した。
参考 20	周必大(1126～1204)撰 『文忠集』巻三十七 皇従姪筠州團練使安陸侯	趙宗訥には女が八人いた。長女は右侍禁・蔚世庸に嫁した。のち右侍禁・郭昭簡に再嫁した。
参考 21	周必大(1126～1204)撰 『文忠集』巻六十二 中大夫贈特進蔡公(周樞)	周樞には女が二人いた。長女は張調に嫁した。再び文林郎福州録事參軍・兪世昌に嫁いだ。

0000 整理番号	墓誌銘表題	祖母・母・妻など	宗室女性	死亡年の時期区分	0000 死亡年	死亡年年号	死亡年齢	結婚年齢	結婚年の時期区分	結婚年	子供の数	男児数	女児数	位階官品	位階	祖父官品	祖父の官職	父の官品	父の官職	夫の官品	夫の官職	子供官品	子供の官職	出身地	嫁ぎ先	移動範囲	墓誌銘の記載(行状、教育、封号、守節、再婚、離婚など)	撰者、官職	出典
0001	汝南縣太君周氏夫人墓誌銘			北1	976	開寶9年	48	15	北1	943	4	4	0	正五品	縣太君					從六品	閤門副使殿中少監			淮南西路無爲軍廬江縣	江南東路江寧府江寧縣	隣接路間	【守節・教育】府君仕為閤門副使殿中少監早卒。四子皆幼、夫人提攜教誨親授経書及其出就外伝已通孝経論語矣。	徐鉉:吏部尚書(正二品)	『騎省集』巻三十
0002	宋故穆夫人墓誌銘	叔母		北1	989	端拱2年	72		北1	935								從八品	昭義軍節度推官						河北東路大名府館陶縣		【賞賛】我母萬年君愛叔母、叔母拜堂下畢即上手低面聴奉我皇孝誠告之。 【守節】漢開運元年(944)、開(撰者)叔父諱承賛卒。叔母穆年二十有七、嫠居四十五年、歳巳丑(端拱2年989)五月歿。	柳開:贊善大夫(正八品)	『河東集』巻十四
0003	宋楚王故夫人馮氏墓誌	妻		北1	996	至道2年	32		北1	982						從一品	太師	從一品	開府儀同三司	從六品	朝散大夫			河北東路大名府魏縣	江南東路徽州歙縣	路間		舒雅、妻	『葦縣志』巻十八
0004	故平昌郡君孟氏墓銘		○	北1	1003	咸平6年	43		北1	978				正四品	郡君				太祖					貞	京畿路開封府開封縣		【賞賛】郡君麗窈窕之容秉肅雍之德。太祖妃	徐鉉、尚書右僕射(從一品)	『騎省集』巻十七
0005	劉氏太夫人天水縣太君趙氏墓碣銘			北1	1005	景德2年	86	15	北1	934	5	3	2	正五品	縣太君					正八品	太常博士	正八品	大理寺丞 進士	永興軍路京兆府	荊湖南路潭州長沙縣	路間	【賞賛】夫人既笄歸于劉氏。夫人躬機杼以給伏臘男且就学擇鄰居以示訓女将適人結衿襦以申戒鞠育勤苦越十五、而工部従賦鄉書策名仕籍稽古幹事為時聞人蓋劉氏之族繄夫人而立也。	楊億:翰林学士(正三品)	『武夷新集』巻八
0006	漳南縣君張氏墓誌銘			北1	1006	景德3年	37	22	北1	991	5	2	3	正五品	縣君			正八品	太僕寺丞	從四品	諫議大夫	正五品	殿中丞 虞部員外郎	京東東路齊州歷城縣	兩浙路臨安府錢塘縣	路間	【行状】夫人入其門若素小家子、事其姑視日時早暮気節之寒暑、飲食起居之當進與自否者不少懈。如此十五年如始歸、凡楊氏之內宗與其外姻賓客之至者如豐家退視其儲空如惟恐人之知也。	歐陽脩、参知政事(正二品)	『文忠集』巻六十二
0007	試秘書省校書郎李君妻太原王氏墓誌銘			北1	1010	祥符3年	正八品		北1	####	2	2	0							正九品	秘書省校書郎(唐)			河東路太原府	河北西路磁州邯鄲縣	隣接路間		曾鞏:中書舍人(正四品) 伯母	『元豐類藳』巻四十五
0008	旌德縣太君薛氏墓誌銘			北1	1014	祥符7年	43		北1	989	3	1	2	正五品	縣太君		呉越錢忠懿王	正九品	右班殿直	從八品	太子諸率府副率						【賞賛】夫人性柔淑能和其屬人自珮服櫛珥凡資巳者常出於倹而餘好施雖盡費不以為侈也。	曾鞏:中書舍人事(正四品)	『元豐類藳』巻四十五
0009	皇姪康州團練使夫人呂氏墓誌銘		○	北1	1014	祥符7年	19		北1	1013						正一品	太子尚書令	正一品	丞相	從五品	團練使				京西北路河南府永安縣		【賞賛】夫人夙稟家訓幼勤女職動。	夏竦:宰相(正一品)	『文荘集』巻二十九
0010	故順容邵氏墓誌銘		○	北1	1016	祥符9年																		淮南東路揚州廣陵縣(南渡後)	京畿路開封府開封縣	路間	【賞賛】邵史邵氏生稟嘉慶賦質柔和。	夏竦:宰相(正一品)	『文荘集』巻二十九
0011	文正李公魏國太夫人符氏墓銘	継室		北1	1018	天禧2年	67	26	北1	977	6	4	2	正一品	國太夫人							正三品	翰林学士 右諫議大夫 朝奉大夫 贊善大夫	河北西路眞定府眞定縣	河北西路深州饒陽縣	路内	【賞賛】公先夫人即夫人之従祖伯姊也。二姓合好永資繼室之賢百両御婦適協宜家之美一受封武都郡。	祖無擇龍圖閣直学士(從三品)	『龍學文集』巻十五
0012	唐故太原府君夫人彭城劉氏墓銘			北1	1018	天禧2年	49		北1	987								從二品	壽州節度使					京東西路徐州彭城縣			【賞賛】夫人麗窈窕之容。夫人雅性冥然自足慈和待物恭倹飭躬子孫以之。	徐鉉、尚書右僕射(從一品)	『騎省集』巻十七
0013	故永安縣君李氏墓誌銘			北1	1021	天禧5年	43	15	北1	993	4	2	2	正五品	縣君			從一品	尚書令	從六品	朝散大夫 尚書刑部郎中			京西北路開德府濮陽縣	京西北路孟州河陽縣	路内	【賞賛】夫人笄仲兄今徐州丞相由進士貢數不中第貲少衰。夫人持奩中物盡內。陳公交甚驩俱、以名稱京師景德中同年取科第。 【行状】夫人未嘗以兄勢卑其夫族事先夫人能勤禮自持承顏下色無少怠。	尹洙:起居舍人(從六品)	『河南集』巻十四
0014	北海郡君王氏墓誌銘			北1	1023	天聖元年	37	23	北1	1009	7	4	3	正四品	郡君			從九品	本州助教	從七品	太常丞			京東東路濰州北海縣	京東東路濰州北海縣	県内	【賞賛】其母曰「自吾女適人吾之内事無所」。而呉氏之姑曰「自吾得此婦吾之内事不失時及其卒也」。太常君曰「擧吾里中有賢女者莫如王氏。於是娶其女弟(妹)以繼室」。而今夫人戒其家曰「凡吾呉氏之內事惟吾女兄之法、是守至今、而不敢失夫人有賢」。子曰「奎字長文初擧明経為殿中丞、後擧賢良方正直言極諫、今為翰林學士尚書兵部員外郎、知制誥」。 【封号】夫人初用子恩追封福昌縣君、其後長文貴顕以夫人為請天子曰「近臣吾所寵也。」有請其可不從乃特追封夫人為北海郡君。長文号泣頓首曰「臣奎不幸竊享厚祿不得及其母、而天子寵臣以此俾以報其親、臣奎其何以報。」當是時朝廷之士大夫呉氏、之鄉黨鄰里皆咨嗟歎息曰「呉氏有子矣。」	歐陽脩、参知政事(正二品)	『文忠集』巻三十六
0015	太原郡太君王氏墓誌	継室		北1	1027	天聖5年	44		北1	1001	13	7	6	正四品	郡太君			正二品	太尉	從二品	太子少傅	正八品	太常博士 太常寺太祝	河北東路大名府華縣	京畿路開封府開封縣	路内	【賞賛】夫人少為族人所寵愛、願於大家著姓為相宜文正公曰以吾女性孝而淑賢必能盡力於夫族且其節行易以顯亦足見吾家之法度焉。 【封号】景祐(1034～1037)郊祀追封太原郡太君	蘇舜欽、集賢校理	『蘇學士集』巻十五
0016	唐故文水縣君王氏夫人墓銘			北1	1028	天聖6年	50		北1	996	2	1	1	正五品	縣君	60	左司郎中	從六品	禮部郎中					淮南西路無爲軍盧江縣			【賞賛】夫人麗窈窕之容秉明慧之性。	徐鉉、尚書右僕射(從一品)	『騎省集』巻十七
0017	唐故隴西李氏夫人墓銘			北1	1029		25		北1	1022						60	左司郎中	正八品	太子洗馬					河東路太原府			【賞賛】夫人襲圭組之英發為秀色鍾姻睦之氣凝為淑性柔而有則愛而不驕。紃組之工、翰墨之妙、稟自天性能必過人。	徐鉉、尚書右僕射(從一品)	『騎省集』巻十七
0018	太夫人胡氏墓誌銘	母		北1	1030	天聖8年	63		北1	985	2	2	0	正二品	郡太夫人					從四品	太中大夫	正八品	著作佐郎	成都府路成都府成都縣	河北西路相州安陽縣	路間	【学問】夫人生而淑明柔德備善書札尤精女工性慈仁。歸信釋氏歷觀藏典深達義趣口能誦者十數經閨門之內傳授教誘人。 【行状】夫人上奉仁壽(姑・仁壽郡太夫人)、下睦宗姻內外無間言、仁壽愛而禮之相待之意猶姪娣然。	韓琦:宰相(正一品)、母	『安陽集』巻四十六
0019	鄭公夫人李氏墓誌銘(汝南郡太君)			北1	1031	天聖9年	32	17	北1	1016	3	2	1	正四品	郡太君	正八品	縣令	從六品	尚書駕部郎中	從六品	尚書祠部郎中	正三品	翰林学士 尚書兵部員外郎	兩浙路台州仙居縣	荊湖北路安州安陸縣	路間	【行状】夫人敏於德詳、於禮事皇姑称孝、內諧外附上下裕如。 【封号】夫人追封汝南郡太君。	王安石、宰相(正一品)	『臨川文集』巻一百
0020	隴西郡君李氏墓誌銘			北1	1031	天聖9年	53		北1	996	12	10	2	正四品	郡君							正三品	翰林学士他	京畿路開封府陳留縣	京畿路開封府咸平縣	州内	【教育】夫人始終如賓、授諸子孝經古詩方田之數、逮其就學皆未勞而習教諸婦。	宋祁:翰林学士(正三品)	『景文集』巻六十
0021	故贈太師章公夫人追封鄧國太夫人張氏墓誌銘			北1	1032	明道元年	正八	15	北1	####	1	1	0	正一品	國太			正七品	水部員外郎	從一品	太師	從一品	中書門下平章事	福建路建州建安縣	江南西路洪州武寧縣	路間	【賞賛】生而殊稟幼、而明悟既笄、而四德＝未結縭(結婚)、而六姻是式武寧章府君。	宋祁:翰林学士(正三品)	『景文集』巻六十
0022	胥氏夫人墓誌銘			北1	1033	明道2年	17	14	北1	1030	1	0	1					正三品	翰林学士	正二品	参知政事			荊湖南路潭州	江南西路吉州廬陵縣	路間	父・偃:天聖八年(1030)脩以廣文館生、擧中甲科。又明年胥公遂妻以女、公諱偃世為潭州人、官至工部郎中翰林學士。公以文章取高第以清節為時名臣為人沈厚。周密其居家雖燕必嚴不少。 【行状】夫人歸其夫不知其家之貧去姆傳、而事其姑不知為婦之勞。	歐陽脩、参知政事(正二品) 妻	『文忠集』巻六十二
0023	宗室懷州刺史殤女墓記	未婚	◎	北1	1034	景祐元年	3		北2	1049							高密郡王	從五品	懷州刺史									宋庠	『元憲集』巻三十四